

報告書



令和2年 2月 5日

小牧市議会議長 様

会派名 無会派 安江美代子
代表者氏名 安江美代子

調査を行いましたので、その結果を報告します。

記

1 調査日

令和2年2月3日(月)～2月4日(火)

2 調査先及び調査項目

(1) 静岡県掛川市

調査項目：まちづくり協議会について

(2) 東京都足立区

調査項目：ギャラクシティについて

3 参加議員

安江美代子

4 調査

内容

別紙にて報告

①日時

令和2年2月3日（月）13時から15時

②訪問先

静岡県掛川市

③説明者

生涯学習協働推進課、協働推進室、協働推進係、主査
鈴木さん・片山さん

④調査項目

- ・まちづくり協議会設立の経緯について
- ・事業費について
- ・市とのかかわりについて
- ・今後の課題について

⑤視察先の選定理由と目的

- ・小牧市において地域協議会の設立を進めている。先進地の取り組みとして、区長会で視察されたと聞いたので掛川市を選んだ。

⑥視察項目の概要説明

◆まちづくり協議会設立の経緯について

- ・なぜ協働によるまちづくりなのか
誰も経験したことがない社会に対応可能な「市民自治」の仕組みを今のうちから構築しておく。その手段が「協働」
- ・「協働によるまちづくり」を進めるための大きな考え方として、平成25年4月1日に「自治基本条例」が施行された。具体的な仕組みを定めた「協働によるまちづくり推進条例」が、平成27年4月1日施行された。
- ・掛川市のまちづくりの仕組みは、「地区まちづくり協議会」「地区まちづくり計画」「地区まちづくり協議会交付金」「まちづくり協働センター」まちづくり計画では、計画期間を5年から10年間とすることで単年度ではできないような取り組みについても、地区の夢や目標が住民間で共有され、役員の交代がある中でも継続的に取り組むことができる。まちづくり協働センターでは、まちづくりの疑問に答える・学びあう機会の提供・様々な活動の紹介・地域、他団体とつなぐなど、応援するために作った。

◆事業費について

- ・地区まちづくり交付金は、協働によるまちづくりを推進するため、地区まちづくり協議会が自ら創意工夫し考えた地域課題解決に為の事業を安定して行えるように、自由度の高い交付金として交付している。事業実施の経費に対する交付金は10分の10・拠点施設の整備、修繕地区全体の環境整備に対する交付金は、上限額年100万円・事務局の運営経費に対する交付金は、報償費上限年100万円。全体では1億2000万円。

◆市とのかかわりについて

- ・職員6名で31の協議会を担当している。専門家NPO法人のアドバイザーも入って、年4回相談会を持っている。

◆今後の課題について

- ・人材不足である。

⑦議員からの主な質疑

質:掛川市においては31の協議会があるが、一斉にできたのかどうか。

答:平成27年に3地区のモデルケースを設立して、平成28年度に一斉に設立した。原点は、生涯学習運動である。生涯学習運動の成果のうえに具体的な実践となる「協働」を重ね全市的な「協働によるまちづくり」の展開を図った。

⑧考察、小牧市への反映について

- ・203の自治会があり、さらに地区まちづくり協議会が31あることに驚いた。根底には、先々代の市長さんの思いが生きており、二宮尊徳の「報徳」の教えを生涯学習に取り入れたことから、広く市民が報徳を学び生涯学習の核となっている。市政のすべての根幹に「生涯学習」の考え方があることが素晴らしいと感じた。
- ・まちづくり協議会では、多種多様な取り組みが行われており、発表会もあり交流している。小牧市では始まったばかりだが、参考にしたい。

①日時

令和2年2月4日（火） 10時から12時

②訪問先

東京都足立区 ギャラクシティ

③説明者

地域のちから推進部・地域文化課・文化施設経理係長：吉野さん

地域のちから推進部・地域文化課・文化施設経理係：上田さん

ギャラクシティ指定管理者みらい創造堂館長：村田さん

④調査項目

- ・ 設立の経緯について
- ・ 設立経費と運営経費について
- ・ 運営形態について
- ・ 今後の課題について

⑤視察先の選定理由と目的について

- ・ 現在進行中の（仮称）こども未来館に入る予定のネット遊具やデジタルコンテンツなど実際に見学するため。

⑥視察項目の概要説明

◆ 設立の経緯について

- ・ 元々は、科学館であった（138億円）1994年3月オープンしたが年々集客が少なくなり、2013年4月に21億円かけてリニューアルした。「こども未来創造館」「まるちたいけんドーム」「西新井文化ホール」3つを総称して「ギャラクシティ」と呼ぶ。足立区立の遊びながら学べる、体験型複合施設である。施設の設置目的は、子どもから大人までの様々な人々が楽しみながら遊びや創造的な体験、文化活動や鑑賞を行うことを主眼としたコミュニティ施設で、様々な活動を通して学ぶことができる場、同時に文化を楽しみ、区民自身の活動を発表できる場の提供を目的とします。一般の公共施設の役割も担っていることから、区民生活の利便性や安全・安心の維持向上も実現しなければならない。

◆ 設立経費と運営経費について

- ・ 指定管理費用は、3つの施設を合わせて約5億円。130万円以上かかる修繕費は足立区が負担している。

◆運営形態について

- ・指定管理会社・みらい創造堂 運営はヤオキン商事、施設管理は協栄の JV である。5年間の指定管理期間。プロポーザルで業者を決める。

◆今後の課題について

- ・赤ちゃんから高齢者までをどう受け入れるかが課題。
- ・来館者数は年間延べ151万人。平日と休日の差が大きい。特に日曜日の雨の日は混雑する。
- ・足立区内の人の利用が3割である。区内の人の利用を多くしたい。
- ・区外の人が多いため駐車場が不足している。

⑦議員からの主な質疑

質：日本最大級のネット遊具は、経費はいくらか。混雑時の対応はどのようにしているか。ケガはないか。

答：元々は、スペースシャトルがあって、その撤去費用と合わせると約2億円。30分おきに並んでもらっている。1回につき80人に制限している。年間数件あるが、軽い捻挫で済んでいる。医務室もある。保険適用はしたことがない。

⑧考察、小牧市への反映について

- ・日本最大級のネット遊具が、小牧市の未来館にもできる予定だ。近隣市町からくれば混雑して、駐車場も不足する。その対応はどうか。
- ・「デジタルキャンパス」は、人気のようだ。比較的明るい場所であった。現在2種類のしりとりゲームを繰り返し使っているが、更新しようと思うと経費がかかるのが、課題だ。小牧でのプロジェクションマッピング・柱へのデジタル情報発信まで必要なのか疑問だ。
- ・休日の混雑と平日の利用の活用をどうするのか課題だ。
- ・「赤ちゃんから大人まで楽しめる施設に」という一方では「中央児童館としての役割」もある。業務委託も考えていると思うが、子どもたちが安心して過ごすことができることが一番大切だ。大人と子供、顔が見える関係ができる施設を期待する。

